

お正月の伊豆旅行

平成十年の元旦は、親子三人で義妹の我妻こうちゃん夫妻のマンションで迎えた。招待され甘える事にしたのだった。

我妻良志、こう夫妻は神奈川県海老名市に、マンションを買い求め共稼ぎで会社に通勤している。

私は蔵王に、妻は仙台で勤めて居た。妻の単身赴任の格好だ。平成九年の大晦日、一朗の運連する車で蔵王の自宅を出発した。

昼頃マンションに到着、昼食をご馳走になり二朗の車はマンションの駐車場に置き、我妻家の三菱車に五人乗り、富士箱根伊豆国立公園内にある今井浜保養所に向かった。

途中、芦ノ湖が見える峠に差しかけた時、富士山が雲の上から姿を現し、眺望が素晴らしい。五十五年前、国民徴用令で働いていた、三浦三崎、高円坊の実験所から相模湾に、浮かんで見える富士山を思い出した。

夕方、良志さんが勤めている、住宅公団の今井浜保養所に到着した。海岸より高くなっているが、東北のような冬の気配がない、伊豆半島は温暖な土地である。

ご馳走になり、入浴、旅の疲れを癒し夢路に入った。

目が覚めると今日も快晴であった。窓から見える海岸の朝日に映えるコントラスが素晴らしい。朝食後、二朗は体が不調だということで保養所に残し、四人で観光に出発した。

今井浜より海岸沿いを北上、国立公園城ヶ崎に向かった。この



まま海岸沿いに進めば熱海温泉に着く。城ヶ崎で吊り橋を渡り、三陸のリアス式海岸を思わせる絶壁を鑑賞、記念碑等の前で、四人代わるがわる写真を撮り、散策路の両側に咲き誇る水仙の花に見とれた。真冬でも伊豆は仙台の五月並のようだった。

城ヶ崎より南下、海岸風光を楽しみ、下田市より半島を横断、山間の温泉街を通り西海岸、松崎港に着いた。食堂に入り海鮮料理に舌鼓みをうち、別ルートの山路を経て、伊豆半島の最先端、石廊崎近くにある、ジャンゲルパークに向かった。

園内では様々な花、とりわけトランペットの花は見事で、一本の茎に数十の花が、私の背より高く咲き誇っていた。数多いサボテン、植物、等ゆつくり鑑賞後、下田市を通り今井浜保養所の宿に帰った。

翌日も晴天に恵まれ、二朗も加わり出発、近くの河津町でお土産を買い、海岸通りを逸れ、伊豆半島中央の山道に入り、河津七滝を見物、猪村（イノシシむら）に着いた。

猪は豚に似ている、競馬ならず、競猪？をやっていた。緩やかな斜面に、柵で競馬場

いや、競猪場をつくり、猪を一斉にスタートラインより走らせる。走路は曲がりくねり、登り下りが多い。観覧席は階段状になっていて、観やすい。

レースが始まる前に、猪券（チヨ券？）を全員に渡される。猪の背中には、番号を書いた布が巻いている、一〇匹〜一五匹が一斉に走り出し、競争するのだから見事である。一周約百メートル



ゴールの判定が放送された。私達五人の中、私の猪券が適中、賞品に猪の縫いぐるみを貰った。マスコットとして居間に飾ってある。

猪村の近くに、浄蓮の滝がある。駐車場より急な階段を降りると、滝壺前の広場には、わさびの店がある。滝の前で写真を撮り、流れ添いにある見事な、わさびの群生を見学した。此処には「天皇陛下行幸の地」「日本観光百選浄蓮の滝」立板があった。

妻は生わさびをお土産に沢山買い求め出発、修善寺町を通り「サイクルセンター」で一服、往路を逆行、海老名市のマンションに夕方早めに着いた。

夜は在京の兄弟、姉妹、家族全員集まり、パーティーを開いてくれた。しかし二度とこんな楽しい集まりは出来なくなった。こうちゃんは八人兄弟の六番目で、まだまだ若かったが、癌の為今年一月二十八日、先に逝ってしまった。

活発で優しい妹だった。私達を招待して呉れたのは、前出のエッセイ”ジュニアパイロット”で紹介した内容で分かると思うが、子供達が幼い時、毎年夏に仙台のこの家で、一ヶ月位世話になった御礼返しのおいだったのだらう、こうちゃんの気持ちがよく分かり俵ばれる。



